

多摩デポ通信 第12号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2009年11月3日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

● HP / <http://www.tamadepo.org/>

● E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

都立多摩図書館で

所蔵していた地域資料が

処分されようと

しています！

10月9日付で都立中央図書館長から市町村立図書館に宛てられた文書において、かつて都立多摩図書館が所蔵していた地域資料約九万点が処分されようとしていることがわかりました。私たちはこの発表に衝撃を受け、大きな危機感を感じています。

対象となっっている地域資料等は、一括で揃っていることに大きな意義があります。旧都立青梅図書館が行政郷土資料センターとして業務を開始以来、市町村図書館関係者及び発行者の協力を得て収集整理を進めてきたものであり、多摩地域にとつて大切な地域資料です。それを分割し、引き取り手が無い場合には処分することは、都民の貴重な財産を消滅させることになり、多摩地域の都民への格差助長にもつながりかねません。都立中央図書館で複本になっっている資料であったとしても、想定されている災害

等を踏まえ分散保存しておくことを考えるのが都立図書館の重要な責務です。

このようなことから、10月26日、座間理事長と齊藤事務局長が都立中央図書館に出向き、関口管理部長に面会し、約1時間ほど話し、都立中央図書館長にあてた要望書を出してきました。その概要は以下の3点です。

- ①地域資料という希少性が高く、地域を考える上で重要な資料を性急に処分しないこと。
- ②今回の処分を撤回し、対象となっっている地域資料を一括して都立多摩図書館等に戻し、その収集、整理を継続しながら、都民が多摩地域で利用できるようにすること。
- ③『都立図書館改革の具体的方策』における相互貸借の促進と協力貸出の見直しについて(第二次まとめ)

で都立図書館自身が述べているように、都内公共図書館が、共同保存システムを含めた資料保存に対する方針を共に検討し、先人が残してくれた知的財産をだれもが、将来にわたって利用できるような仕組みづくりにも速やかに着手すること。

今回の都立図書館の対応を、絶対に容認することはできません。

多摩地域の市町村立図書館長会が、必要な資料があれば各自治体で個別に申し込めという都立中央図書館の対応は違う、区市町村と保存のことを一緒に話ししましょう、と再考の申し入れを行っており、この問題は目が離せません。

今号に挟み込んだ「アサヒタウンズ10月22日号」記事も参照してください。多摩デポHPや多摩むすびMILなどもご覧ください。

多摩地域一冊本の

横断検索ボランティア

始まる

日野市立図書館

除籍作業へ協力

多摩デポは、共同保存図書館設置に向けて様々な活動を続けてきていますが、まだ実現には至らず、毎年多摩地域の図書館では多くの資料が大量に廃棄処理されています。各自治体の書庫では、所蔵する最後の一冊でも廃棄対象となるケースが増えており、書庫スペースは逼迫しています。

こうした中、多摩デポでは、近い将来の共同保存図書館に向けた準備として、各自治体での廃棄予定資料の中で、その館の最後の一冊が、多摩地域での最後の二冊本（多摩地域で最低二冊を保存する方向）に該当するかを検索し、該当す

る場合は保存シールを貼付し、将来、共同保存図書館で保存すべき資料であることを明確にする事業を行ないたいと考えています。

日野市立図書館は、多摩地域最後の二冊に該当する資料は自館の責任において保存をしていくことを明確に打ち出されました。そして多摩デポに、自館の最後の二冊本が最後の二冊本に該当するかの検索調査の協力依頼がありました。

最後の二冊本に該当する資料を検索し、確認する方法やシステムなどについては確立されておらず、どの程度の作業量と作業期間が必要となるのかは、推測の域を出ません。

多摩デポでは今回の日野市の検索調査依頼は、共同保存事業に関する第一歩であり、共同保存図書館構想実現に向けた準備のモデルケースと位置付け、検索作業

を行ないながら、作業手順や効率的な検索手段などについて調査をしていきたいと考えています。

そのために、多摩デポ会員および協力してくださる方々の協力を得てこの検索事業を行ない、作業を行なう中でよりよい方法も見つけていきたいと考え、八月にボランティア募集のお願いを発送しました。当初の総検索件数の見込みが三万件という膨大な量だったことでしりごみされた方もあったようですが、お願いハガキが届いたと思われるその日に応募してくれた方もあり感激でした。少しでもよければという方も含め、一六人の方に参加していただけのことになりました。

最初に図書館から9門のテストデータを送っていただけ、事務局で、なるべく効率的に検索できる方法を考え、何度かの手直しを経

て、マニュアルを作成しました。実際に3門のデータが送られてきてとりかかったら、多摩地域での所蔵状況が、小説類とは全く違っていることがわかってあわてたり、という場面もありました。横断検索の時間を節約するため、検索対象自治体を7市に絞った一次検索と全自治体対象の二次検索に分ける方法があまり有効ではなく、検索キーの選び方も小説類と3門資料では違うこともわかりました。ボランティアの方々のご意見をいただいて今後に生かしたいと思います。

当初、八月下旬から作業開始の予定が図書館での準備の都合上九月下旬からの作業となり、一回目の3門約三、六〇〇冊の検索には一四人が参加し、ほぼ予定通りの日程で日野市立図書館に検索結果データを送ることができました。

この事業結果は、多摩地域での資料の共同保存を考える上で、貴重な資料になると思われます。統計データ等も何らかの形でまとめ手順についても、より効率的な方法を提案していきたいと考えています。

今後もし引き続き検索事業に協力していく予定で、現在二回目のデータ検索（9門小説、エッセイ、文庫）に着手したところ。そのあと5門、4門、7門と続きます。今からでも参加できる方、ぜひ事務局までご連絡ください。



第五回多摩デポ講座 大倉山見学会開催！

8月、暑い盛りのも多摩デポ講座はいつもと趣向を変え、見学会として横浜市まで遠征しました。

東急東横線の大倉山駅から徒歩7分にある大倉山記念館。現在は横浜市有形文化財に指定されている建物は、昭和初期の実業家である大倉邦彦が莫大な私財を投じて建てたプレ・ヘレニック様式の洋館です。日本の精神文化を研究する大倉精神文化研究所とその附属図書館が併設されています。

大倉は、図書館をつくるにあたり、一年をかけてヨーロッパの図書館や教会をめぐり、心血を注ぎました。図書館の設備も、アメリカのライブラリー・ビューロー社や間官商店など、当時、一流とされたものが採用さ

れ、いまなお使われています。一見の価値があります。資料として古文書古記録影写副本、一六一九年版アリストテレス全集、榊原文庫、そしてタゴール文庫など、貴重な資料もいろいろ保存されています。

いままも活発な動きはHPなどでもご覧ください。



大倉山見学会感想

神奈川県立川崎図書館
上野和希

8月15日の多摩デポ講座は、大倉精神文化研究所附属図書館の見学会でした。この図書館の建物は研究所の知性、教養の象徴という位置付けがなされています。日本の精神文化を研究する上で利用されてきた資料をもとに蔵書が成り立っており、哲学、宗教、歴史、文学に関する資料約9万冊を揃えています。図書館体験ツアーの形で職員の方が案内してくださいました。

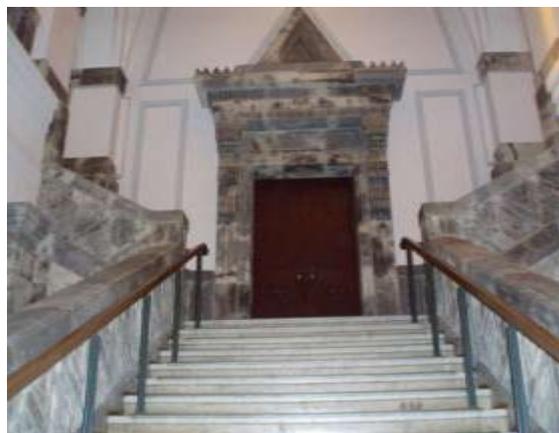
小高い丘の上の研究所を目指し、傾斜の急な坂を登って行くと、目の前に現れたのはプレ・ヘレニック様式の荘厳な造りの建物でした。近隣の商店街の喧騒は遠く、森閑とした佇まいですが、時には、音楽会など

も行なわれているとのこと、文化の香りが漂います。

図書館の一階は、開架書架になっていて、近年刊行された資料が置かれ、貸出も行なわれていますが、より専門的で古い資料は、5層の積層書架に保管されています。書架の多くを貴重資料が占めており、それを保つ積層書庫（ライブラリー・ビュウロー社製）は、昭和初期につくられたものとは思えないほど堅牢で、時の流れを見続けてきた重みさえ感じます。また山積みの整理されていない資料もあり、日常の業務の合間に解決しなければならぬ課題とのことでした。最近の大きな動きとしては、分類の変更があり、これは近い将来ホームページからの蔵書検索を可能にするため行なっているとのこと。どこの図書館でも、職員はより良い図書館への道を日々

探って奮闘しているものですが、まさにその状態を職員の方の熱心な説明に垣間見ました。

書庫内にある古い利用案内の看板や、現在は使われていないリフトなど、年月を遡れば役立っていたものもありました。歴史ある研究所ならではの蔵書や設備がこの図書館を特徴付けていますが、古い資料を残すという一見困難と思わる事業を行うと同時に、利用を促して行こうという気概が感じられる図書館でした。



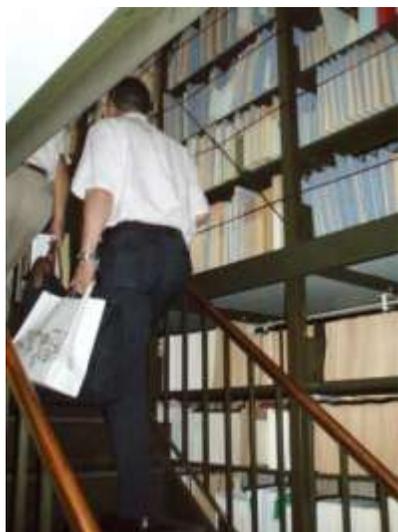
積層書架が各階の天井を支えているつくり



写真上 建物正面／柱は下に行くほど細い **写真右** 中に入ると大きな階段が

五層になった書庫の中へ

いざ



書庫訪問

日野市立図書館の巻

連載も五回目となった書庫訪問、今回は除籍候補資料の整理作業まっただ中の日野市立図書館です。

日野市立中央図書館は、1973年4月に開館、建物自体は35年余の年月を感じさせますが、落ち着いたレンガの佇まいは訪れる人を心地よく迎えてくれます。

日野市立図書館は中央図書館のほか市役所内の市政図書室を含む六つの分館と移動図書館とで構成され、全体の蔵書数は74万冊を超えています。中央図書館では、開架室に約10万冊、二階レファレンス室、書庫とあわせ全部で25万冊を所蔵しています。

さて、その閉架書庫は、表玄関からは地下になりませんが、裏の車庫側では地上、



という構造です。移動図書館の書庫・事務スペースを兼ねた書庫は広さ253㎡、そこに自治体内での最後の一冊になった資料のうち、3門、9門等の図書が入っています。

書架を見ていくと、古い本もすっかり残してあつて、選書の確かさが伺われます。うーん、さすが日野！と思わせられる品ぞろえです。

しかし、ごらんのように棚はすでに満杯状態、横積みの本も多々見受けられます。それでも入りきらない図書は「入りません」の付箋をはさんで一時置き棚に積んであります。

日常的に書架から廃棄候補資料を抜き取り、市内各図書館でのリサイクルに回さないと、どんどんあふれる状態になっているそうです。

ここで目を引くのが、壁にはってある廃棄決定の手順です。きちんと他自治体および都立図書館の所蔵を探索することが決められています。多摩地域で日野以外の自治体の所蔵がゼロ冊または一冊の場合は廃棄できません。

この状態が今号二ページで紹介したように、日野市立図書館除籍候補資料の整理事業をせざるを得ない理由のひとつなのです。

もうひとつは、車庫に置かれたダンボールの山、山、山……。写真を見ると、奥に移動図書館車の屋根の部分が見え、積まれた段ボールの高さがわかります。

これはもともと平山図書館の二階の保存書庫に置かれていた図書ですが、平山図書館の建て替えて、置けなくなってしまうものなのだ、とのこと。

多摩地域の共同保存庫ができれば、そこに運び込めるはずだったので、今のところは自治体内で解決せざるを得ません。とりあえず車庫に運び込んで、すでに3年、これ以上このままにしておくわけにはいかず、整理に着手したのだそうです。

書庫内の書架から廃棄図書を引き抜き、空いた書架を詰めて、車庫のダンボールを開けて他自治体の所蔵を検索し、日野市で保存す

べき図書を書庫の書架に繰り込んでいく、という大変な作業です。日野市立図書館では、緊急雇用対策費をつけて職員を雇用し、館をあげてこの事業に取り組んでいます。



市全体では中央図書館のほか、高幡図書館に2門、8門約1万4千冊、多摩平図書館に児童書、家庭実用書等9千冊を収蔵し、旧平山台小学校にも保存用地域資料の保管場所を確保しています。

廃棄候補リストは、横断検索にとりかかる前に、職員の方が他市の所蔵の有無にかかわらず日野市で残しておくべきものをチェックします。「本の顔を見ると捨てられない」と悩む職員の方たちの姿に、一刻も早く多摩地域に「共同保存(利用)図書館」を作りたいと改めて強く思いました。

(田)

JHK(情報保存研究会) シンポジウムで、事例発表

NPO多摩デポ
齊藤事務局長

10月16日、東京・両国の江戸東京博物館において、(社)日本図書館協会とJHK(情報保存研究会)の共催で第3回資料保存シンポジウムが開催されました。この中で多摩デポは齊藤誠一事務局長が事例発表を行いました。当日は、公文書館を始めとするさまざまな情報保存機関や企業などで資料の保存と活用に関わっている227名の参加がありました。

都立の今回の多摩地域資料の再活用の問題も反響を呼んでいました。

第6回多摩デポ講座

蛭田廣一氏

「小平市から発信する地域資料サービスと資料保存」開かれる

10月18日、国領駅前の調布市市民プラザあくろすで、前小平市立中央図書館長で現在は企画財政部参与の役職で市史編纂をされている蛭田廣一さんの講演会を行いました。蛭田さんは立ちっぱなしで、地域資料実務のパイオニア、そして公立図書館経営のリーダーだった熱のこもったお話をたっぷり。日曜日で現役職員の参加は少なかったですが、そういう立場の者にこそきつと明日の指針として聞くことのできる内容でした。

終了後の懇親会でまた、事業の立ちあがっていった過程をうかがえました。

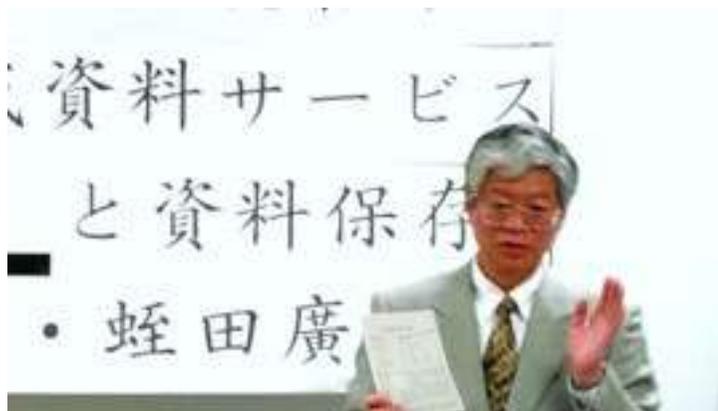
蛭田さんの講演を

お聴きして

松尾昇治（会員）

蛭田さんと久しぶりにお会いし講演をお聴きすることができ、感激しました。理路整然と淡々とした口調で話されるなか、次々と含蓄ある内容が語られ、メモを取りながら一語も漏らすまいと真剣に聞きいってしまいましたので瞬く間に二時間が過ぎていきました。もっと聞きたいという余韻が今でも残っています。

蛭田さんは1975年入職以来小平市立図書館に33年間勤務し、この間、三多摩郷土資料研究会の幹事、事務局長を歴任し、日本図書館協会から刊行された『地域資料入門』の編集執筆に中心になって関わり、日本図書館協会資料保存委



員会でも七年間に渡って役員を務められてきました。公共図書館界では未開拓であった「地域資料」分野のパイオニアとして、その実践を理論化してきた業績は館界のみならず出版界などからも評価されています。

日本史学を修められたこ

とで、図書館就職後に小川家文書に接したことが、公共図書館の地域資料を考える発端になったことで、図書館の資料保存のあり方を考究され、「いつでも、だれでも、いつまでも、利用できるようにしておくこと」という考え方を打ち出し、資料保存の面からも中性紙使用の啓発活動などに尽力されました。

小平市立図書館の地域資料では、郷土写真としての定点撮影、歴史を語る写真の発掘と複写など多くの実績をあげられました。今日の図書館の必需になった図書館ホームページの構築には人一倍の情熱を注がれたようです。

ここでは講演の内容を細かく取り上げることができませんが、各方面の情勢を的確にとらえ、それを図書館発展の方向にもっていく卓越した手腕をもち、職員

や市民の信頼を得ながら、在任中に多くの成果をあげられたことが語られました。講演は多くの現役図書館員に聞いてほしかったと感じました。幸いにも多摩デポブックレットとして活字になると聞きました。ぜひ多くの人に読んでいただきたいですね。

昨年四月からは、小平市史の編纂に取り組んでおられますが、これまでの図書館実践で得た多くの蓄積を糧に小平の金字塔となり得る市史を編纂していただきたいと願っています。

図書館総合展・横浜の
ポスターセッションに
おいで下さい

間もなくパシフィコ横浜で第12回図書館総合展が始まります。関連行事として学術情報オープンサミット

がありそのプログラムにポスターセッションがありま
す。総合展にやってくる人
に向け自由に展示発表ので
きる場です。昨年に続き、
多摩デポはこのポスターセ
ッションに参加し、めざす
「共同保存図書館」の意義
と運動の現状を多くの方に
訴えたいと考えています。

● 昨年の参加で図書館界で
いろいろな訴えかけがあり
またそのアピールの出来に
刺激を受けました。埋没せ
ず、来場者に自然に足を止
めていただく展示の作りに
今、頭を悩ませているとこ
ろです。図書館総合展に來
られたら、どうぞ、ポスタ
ーセッションものぞいて、
私たちの展示の出来にひと
言お願いします。

開催日時
11月10日(火)～12日(木)
午前10時～午後6時

「地域資料の収集と保存
」
「たましん歴史地域文化
財団歴史資料室の場合」
多摩デポブックレット
第2号発刊!

JR国立駅南口前に、た
ましん歴史地域文化財団歴
史資料室があります。多摩
の歴史資料を収集、公開し
てこられ、「多摩のあゆみ」
を長年刊行されています。
その室長保坂一房氏に講演
と見学案内していただいた
第一回多摩デポ講座(昨年
9月実施)の内容が多摩デ
ポブックレット第2号にな
りました。会員には、この
「通信12号」と一緒に一冊
お届けしています。
多摩に住み、多摩のこと
を読み、調べ始めると、「多
摩のあゆみ」ってすごいな、
「たましん」ってなに?と
いうことになります。「共同
保存図書館」の理念を語っ

ていただいた安江明夫氏の
講演録(ブックレット1号)
に続き、大事な本が出来あ
がりました。保坂さんのこ
の本もぜひお読みください。
また、歴史史料室は国立駅
南口前の「たましん」ビル
の上にさりげなくあつて
(ビル自体は目立つのに)
目立ちませんがどうぞ見学
に行かれ、その充実と地元
企業の志にふれてください。
ブックレットは会員が申
し込まれた場合は会員価格
で購入できます。書店での
定価は630円ですが会員
価格520円(非会員には
600円)。何部か買って人
にも勧めて下さい。郵送の
場合、3冊まで80円、4
～6冊まで160円、7～
10冊まで340円の送料
を負担ください。事務所に
FAX、メールでお申込み
をお待ちしています。

★会の現勢

09年10月31日現在

●会員

(個人会員103名)

(団体会員3団体)

●賛助会員

(個人39名)

(団体2団体)

会費がまだの方には、振
込票を同封しました。宜
しく、お願いします。

●年会費

正会員(個人・団体)

五千元

賛助会員一口 二千元

(個人一口、団体五口以上)